

# 第5学年 体育科学習指導案

時間・場所 平成28年10月25日(火)3時間目 体育館  
学 級 5年1組40名(男子19名、女子20名、かがやき男子1名)  
授業者 古戸 淳一

## 1 単元名 器械運動 「マット運動」 (A 器械運動 ア マット運動)

### 2 単元の目標

- 友だちと教え合ったり、協力して運動したりしながら、場のや用具の安全に気を配り、自分のめあてにむけて主体的に取り組んでいる。 【運動への関心・意欲・態度】
- できる技をより安定した動作でできたり、個々の能力にあった技ができる。 【運動の技能】
- 自分の能力にあった技や練習の場を選んでいる。
- 友だちの良いところを見つけアドバイスしている。 【運動についての思考・判断】

### 3 児童について

本学級の児童は、比較的男女仲が良く、休み時間にはみんなで声を掛け合って、校庭や体育館へ遊びに行くことが多い。また、班やグループでの活動の際には、進んで意見を出したり率先して役割を引き受けたりする児童が多く、協力して活動する態度も育っている。

体育に関しては、体を動かすことや体育の授業が好きという児童が多い一方、運動に対する苦手意識を強くもっている児童も数名いる。児童はこれまでに、ボール運動では、ドリブルやシュートなどの技能を教え合ったり、チームで作戦を考えたりするなどの活動を、陸上運動に走高跳では、互いの良さや修正部分を教え合うなどの活動を行ってきた。友達とのかかわりを多くもたせることで、運動が苦手な児童も自分の技能の向上を実感し、運動に進んで参加しようとする姿が多くなってきている。

### 4 指導計画(全6時間)

- (1) マットの技のポイントを動画で確認する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (2) 自分ができる技を確認する・自分が習得したい技についてめあてをもつ・・・・・・・・・・1時間
- (3) グループを作り、練習をする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間(2/2本時)
- (4) 技の発表会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

### 5 本時について

#### (1) 目標

友だちにアドバイスしたり、アドバイスを受けてりしながら技を習得できるようにする。

【運動の技能】

#### (2) 研究に関わって

本時は、グループで技を見あったり、アドバイスし合ったりしながら、できる技を安定してできるようにしたり、新しい技を習得する活動が中心となる。

- ・ 学び合いの活動の工夫

練習①ではそれぞれの技のポイントを確認したり、自分が特に見てもらいたい部分を友達に示し、そこを中心に見てもらいながら練習に取り組ませる。話し合いの時間では、個々の動きについてアドバイスの時間をもち、練習②の時に気を付けるところを話し合う。練習②では、話し合いをもとに練習に取り組み技の精度を上げるようにさせる。

・ 全体交流の在り方

どのような点に気を付け練習をし、技の精度がどう変わったか振り返り、発表し合う。

(3) 本時の展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 ◆評価の観点 ☆復興教育の観点 ◇特別支援の観点
導入 8分	1 準備運動  2 本時の学習内容を確認する。 ・自分のできる技の練習、新しい技を習得のために練習を行うことを確認する。  3 本時の課題を設定する。 技のポイントを意識して、技の練習をしよう。	・準備運動として、マットを使い手首、足首、首などのストレッチを十分に行う。  ・技のポイントを確認しながら、自分が特に気を付けるところを確認させる。  ☆お互いに良いところを見つけ、褒め合ったり、励まし合ったりするように意識付けを行う。 (大切な一人一人)
展開 32分	4 練習① ・グループごとに場を設定し、練習を行う。  5 話し合い ・練習①の様子から、お互いにアドバイスをし合う。  6 練習② ・話し合いの結果をもとに、練習を行う。	◇うまくできない子には、教師が補助したり、グループで補助をしたりさせる。 ・グループで声を掛け合ったり、話見せ合ったりしながら練習を行うようにする。  ・練習①をもとに、グループごとにそれぞれの練習の重点について話し合い、練習②に生かすようにさせる。  ・話し合いでポイントになったところに気を付けて連取したり、アドバイスをしたりしながら練習を行う。  ◆自分の練習のポイントを考えたり、友だちの良いレースを見つめたりしている。(観察・学習カード)
終末 5分	7 課題のまとめ ・友達の良かった点について。 ・できるようになったことについて ・友達の良いアドバイスについて  8 学習の振り返り ・めあてに向かって、練習に取り組めたか。 ・ペアやグループで協力して活動できたか。 ・安全に気を付けることができたか。  7 後片付け	・グループの中で上手だった児童、友だちのアドバイスでできるようになったことなど発表させる。 時間がある場合は、実際に実技をさせる。  ・感想も含め、2～3人が発表できるようにする。  ・グループごとに、協力して後始末をさせる。